

ホクレンディスタンスチャレンジ 2022

千歳大会

【出場結果】

実施日 : 7月16日(土)

会場 : 千歳市青葉陸上競技場

出場者 : 5000m 親崎 達朗 1500m 小林 航央

出場種目・出場者・リザルト

氏名	親崎	小林
種目	5000m	1500m
組	E組	A組
タイム	14'25"03	3'43"02
順位	20/24	8/13

【レポート】

今年の関東地方は6月末で梅雨明けとなり、例年になく早い夏の訪れとなりましたが、夏の走り込み前のトラックレースとしてホクレンディスタンスチャレンジ 2022 千歳大会の5000mに親崎、1500mに小林の2名が出場しました。

例年ですと、北海道で行われる本大会も暑さに見舞われるのですが、今年は強い日差しも無く、無風の絶好な条件の下、レースは開催されました。

まず、5000m E組に出場した親崎は、14分25秒切りを目標にレースに臨みました。



絶好のコンディションの中、記録を狙ってスタートを待つ親崎

先頭集団が 2 分 50 秒/km のペースを刻む中、親崎も集団の後方でレースの流れに乗り、リズム良くピッチを刻みました。3000m が 8 分 31 秒での通過となり、記録を狙うには絶好のペースとなりました。



集団の流れに乗って走る親崎

3000m以降は先頭集団がペースアップし、集団がバラけ始めると親崎も集団から離れ、単独走を余儀なくされましたが、大きくペースを落とすことなく最後まで粘り切り、14 分 25 秒台のゴールとなりました。

目標としていた 14 分 25 秒切りには僅かに及びませんでしたでしたが、シーズンベストをマークする手ごたえのある走りをする事が出来ました。



最後までしっかりと粘り切り、シーズンベストをマークした親崎

続いて 1500mA 組には小林が出場しましたが、日本トップレベルの選手が集まり「日本記録更新」を掲げる組となり、小林も 6 月の日本選手権で予選敗退となった悔しさをリベンジすべく、日本選手権の標準切り（3 分 44 秒 50）を目標にレースに臨みました。



日本トップレベルの選手が集うレースに集中力を高める小林

2 名のペースメーカーが日本記録を更新するペースを刻みましたが、小林は冷静に現状の力を鑑み、集団の最後方で力を温存しラストスパートに備える走りに徹しました。



最後方で力を温存し、ラスト1周のスパートに懸ける小林

日本記録を更新するハイペースだけに、中盤以降はペースにつけなくなった選手が次々と脱落していく中、小林も集団から離れる苦しい展開ではありましたが、ラスト1週の鐘が鳴ると、満を持してラストパートを炸裂させて一気にペースアップし、前方にいた選手にも競り勝って、組8位の3分43秒02のシーズンベストでゴールしました。



狙い通りの走りが出来、喜びのポーズを表現する小林

【総評】

今回の遠征では、全国の強豪選手と競い合えるレースに出場することでのモチベーション向上はもとより、普段の練習では味わえない緊張感や今後の課題を抽出することが出来ました。

5000mに出場した親崎も、14分10秒台の自己記録の更新出来ませんでした。14分25秒台のシーズンベストを記録し、如何なるコンディションでも自分の力を発揮出来ており、今年もチームのエース格の1人として秋の駅伝シーズンでは活躍してくれると期待しています。

小林については、春先に体調を崩した影響もあり、6月に行われた日本選手権では予選敗退という悔しい結果に終わりましたが、早速リベンジする結果を出してくれました。

今回マークした3分43秒02はシーズンベストでもありますが、来年度の日本選手権の標準記録(3分44秒50)を破る好記録であり、次年度も日本最高峰のトラックレースで戦えることとなりました。

来年の日本選手権こそ予選突破して、決勝の舞台で走る小林の姿を楽しみにして下さい。

今回も貴重な遠征の機会を与えて頂き、会社関係者の皆様に多大なる感謝を申し上げます。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援を宜しくお願い致します。